

授業科目 理学療法学基礎理論

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	理学
高木 昭輝		開講時期	前 期	必修・選択	必 修
		単位数	2単位	時間数	3 0 時間
＜一般目標：G I O＞					
理学療法学の定義、歴史、理念、対象を理解する。関節可動域、筋・神経機能と障害、痛み、リスク管理と理学療法の関係を理解する。					
＜行動目標：S B O＞					
1 理学療法の定義、対象を説明できる。 理学療法の歴史、理念を説明することができる。					
2 理学療法学における評価と治療計画の決定過程を説明することができる。					
3 理学療法における治療の実施とリスク管理、治療方針の修正について説明することができる。					
4 理学療法の効果について説明することができる。 拘縮の原因と関節可動域運動を説明することができる。					
5 神経・筋の機能と機能障害回復と理学療法学とを説明することができる。理学療法学と運動制御・運動学習との関係を説明することができる。					
6 「痛み」について、理学療法との関係で説明することができる。					
7 理学療法学とバイオメカニクスとの関係を説明することができる。					
8 理学療法に必要な倫理、法規、管理について説明できる。					
回 数	授業計画又は学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	原論の復習とオリエンテーション（理学療法の概念Ⅰ（理学療法の定義、歴史、理念）と目的）			1, 2	講義、復習
2	理学療法における評価（理学療法的診断学）と治療計画			3	理学療法的診断学、治療計画を考える
3	理学療法的治療の実施と治療方針の修正、リスク管理を考える			4	理学療法の実施
4	理学療法の効果判定			5	evidence based PTを考える
5	関節可動域の理論（主に拘縮と関節可動域運動の関係）			6	P T と関節可動域の関係を考える
6	関節可動域運動と関連する種々の理学療法についてグループ学習(学内) 1			6	自習(グループワーク)
7	関節可動域運動と関連する種々の理学療法についてグループ学習(学内) 2			6	自習(グループワーク)
8	グループ発表			6	全員が発表を担当する。
9	神経・筋機能の理論（感覚神経、筋、運動神経の関係）（筋力低下、筋力増強の理由）			7	講義(知識の想起)
10	神経・筋機能の理論（感覚神経、筋、運動神経の関係）（筋力低下、筋力増強の理由）に関する自習(学内)			7	自習（グループワーク）
11	グループ発表			7	全員が発表を担当する。
12	運動制御・運動学習の理論および痛みの理論、バイオメカニクス			8, 9, 10	講義(知識の想起)
13	前の週のテーマに関する発表のための自習(グループワーク)			8, 9, 10	自習（グループワーク）
14	グループ発表および理学療法に関する倫理、法規、業務管理			10, 11	全員の発表、講義
【使用図書】		＜書名＞ ＜著者名＞ ＜発行所＞ ＜発行年・価格・その他＞			
教科書		理学療法の捕らえ方-clinical reasoning-：奈良 勲編集：文光堂：2001年：4800円＋税(予定)			
参考書		リハビリテーション基礎医学第2版：上田敏、千野直一、大川嗣雄編集：医学書院：1999年：11,000円(予定) 疼痛のとらえかた 理学療法MOOK 3 鈴木重行、黒川幸雄編集：三輪書店：1999年：3800円＋税(予定)			
その他の資料		カラーで学ぶ解剖生理学：州崎悦子 他 訳：医学書院：1998年：5600円＋税(予定)			
【評価方法】		【履修上の留意点】			
期末試験、授業貢献度、発表などを総合的に評価する。		授業に対して受身にならないでほしいと思います。			